

令和３年度第５回富山市通学区域審議会 議事概要

開催日：令和３年１２月１５日（水）

開催時間：１８時３０分～２０時３５分

開催場所：Toyama Sakuraビル５階大会議室

出席委員：中村会長、品川副会長、石動委員、江尻委員、菊川委員、
國香委員、斉藤委員、笹田委員、城岡委員、高木委員、
藤田委員、堀田委員、松井委員、吉田委員、渡辺委員※
計１５名

※…オンラインにて出席

※第５回審議会における審議内容の最終的なとりまとめは、第６回審議会にて行います。

《開会》

【司会】 令和３年度第５回富山市通学区域審議会を開催する。
対面で１４名、オンラインで１名、合わせて１５名全員が出席しているため、富山市通学区域審議会条例第６条第２項の規定により、審議会は成立している。

《前回審議会における質問への補足回答》

【中村会長】 第４回の審議会における質問への回答について、事務局から補足事項があると申出があった。説明を求める。

【学校再編推進課長】 和合中学校を小学校に移転し、小中一貫校を整備しないのか（渡辺委員）について、補足説明する。

和合中学校校舎は現在、耐震化のため改築工事を行っているところであり、令和３年１２月末までに新校舎が完成する見込みである。また、八幡小学校などの小学校に、和合地域の４つの小学校を統合した上で、中学校を移転・改築する場合には、小学校の教室不足が発生することから、和合中学校の

建設に加えて小学校棟の増築を併せて行う必要がある。

さらに、4つの小学校のいずれかを選択する際には、どこに統合するか、保護者の方々や地域の皆様の思いはそれぞれ異なることから、意思の統一が困難となることが考えられる。

【中村会長】 今ほどの説明に質疑等があるか。

(質疑なし)

【中村会長】 和合地域の端、例えば桜谷小学校区に隣接している地区などは、桜谷小学校に通学することはできないのか（渡辺委員）について、事務局から補足事項があると申し出があった。説明を求める。

【学校教育課長】 本市においては、通学区域を設定し、児童生徒の住所によって該当する小中学校を指定しており、これらの就学指定校に通学していただくことを原則としている。

小学校における就学指定校の変更については、就学指定校変更許可基準に基づいて、途中転居があっても通学に支障がなくそのまま通学する場合や、留守家庭において、放課後に児童を親戚または知人に預けてその校区の学校に就学させる場合、さらには様々な教育的な事情によりやむを得ない場合など、個人の状況を考慮して認めている。

これらのほか、地域的事情や、学校の新設や統合等の経緯のため、山室小学校区の一部で東部小学校区への通学を認めているケースや、蜷川小学校区の一部を光陽小学校への通学を認めているケースなどがある。

今回の桜谷小学校に隣接している八幡校区の一部が桜谷小学校へ通学する場合、八幡校区が分かれてしまうこととなり、中学校の進学先など、子どもの教育環境にとって好ましくないのではないかと考えている。

なお、就学指定校の弾力化については、今後、保護者の方々や地域の皆様と具体的な学校再編の議論を進める中において、統合が合意された場合などには、改めて通学距離や通学時間

など、様々な地域的条件を考慮し、検討してまいりたいと考えている。

【中村会長】 今ほどの説明に質疑等があるか。

(質疑なし)

【中村会長】 通学区域の弾力化の必要性については、これまでの協議の中でも意見があった。今後の審議においても、必要であれば、ぜひ意見してほしい。

《第2回審議会の振り返り》

【中村会長】 前回審議会において、第2回審議会（富山中央、富山西部、富山東部）の振り返りを行ったが、パブリックコメントについての情報提供を踏まえて、改めて第2回の振り返りについて意見等あるか。

(意見等なし)

《議事（1）第4回審議会の振り返り》

【中村会長】 第4回審議会における審議内容（富山北部・和合・呉羽）のとりまとめについて、事務局より説明を求める。

【学校再編推進課長】 （第4回審議内容とりまとめについて説明）

【中村会長】 とりまとめについて質疑等があるか。

【高木委員】 徒歩通学の目安が3kmとなっているところが気になるところである。中学校の徒歩通学と自転車通学の境目はおよそ2kmとなっており、中学校でもおよそ2kmの距離が体力から見ても適切と判断しているということである。遠距離通学となる児童についてはスクールバスが出るということではあるが、そういった事情も考慮して考えていく必要があると思う。

【中村会長】 通学距離については、基本方針として、徒歩で2～3km以内としていたが、これまでの審議の中でも、小学生にとっての2kmは結構な負担になるのではないかという意見があった。また、地理的条件が違えば距離の意味も違ってくると思う。

【齊藤委員】 前回審議会後の呉羽地域からの意見を紹介する。
複式学級はぜひ解消してほしいということである。
老田小学校に一次統合するのではなく、最初から呉羽小学校に統合したらどうかという意見に加え、先行して古沢小学校と池多小学校が呉羽小学校に統合したらどうかという意見があった。なお、呉羽小学校に統合するとなると、古沢小学校や池多小学校は少数派になるという面での配慮も必要であるため、例えば全学年一斉にではなく新１年生から順次統合するといったのではないかという意見もあった。
呉羽小学校周辺の道路は大変狭いためスクールバスが通りづらく、また呉羽小学校は校舎が大変古くなっているということで、別の場所に新しい呉羽小学校を建ててほしいという意見もあった。来年度以降、地域の意見をしっかりと聞いてほしい。

《議事（２）事務局説明（大沢野・細入）》

【中村会長】 再編原案（大沢野・細入）について事務局から説明を求める。

【学校再編推進課長】 （再編原案（大沢野・細入）について説明）

《議事（３）意見交換（大沢野・細入）》

【江尻委員】 パブリックコメントについて、私なりには、統合・再編に対する思い（賛成）は、市街地、街なかでは約４割、中山間地では２％ぐらいかと見ている。スクールバスの所要時間が１時間半と言われているところもあり、また、車酔いやトイレの心配、子どもの体調不良時のお迎えの対応が難しいという意見もある。

資料９の２７ページの１８４番は、教員経験から感じたことについてのコメントである。大規模校、小規模校それぞれのよさがあるが、大規模校は担任が忙しいため、なかなか配慮ができず、不適応行動を起こす児童もいた。教師の力量や人

間性も大いに影響するが、教師自身をもっと余裕を持てればよかった。効率化よりも一人一人を大切に、小規模校を大規模校で自分を生かしきれない子どもの受皿にできないかということである。一人一人の意見には真摯に耳を傾けるべきだと思う。

船嶺地区は、例えば小黒の辺りは大久保小学校の方が近く、大沢野小学校へ行くのは少し不合理かと思うが、地区が分断されるのは船嶺自治振興会としては都合が悪いということである。また、船嶺地区にはセーナー苑や富山高等支援学校等があり、福祉に力を入れている学校として存続させたいという意見もパブリックコメントの中に随分あった。地域バランスを見ながら、ぜひ応えていただきたい。

細入地域は南北に長く、岐阜県飛騨市神岡町の谷、中山地区からも神通碧小学校に通学する児童がいる。楡原中学校と大沢野中学校の間は恐らく7.5kmほどだが、谷、中山地区から大沢野中学校は約18kmである。およそ蓮町周辺から大沢野中学校までの距離である。パブリックコメントにおいても、市役所本庁から越中大門駅、中滑川駅までが約18kmであるという意見もあった。学校間の距離だけではないということを確認していただきたい。

また、旧猪谷小学校校区は土砂災害危険地帯である。1週間前の豪雨では、昼前に唯一の市道、県道が土砂災害で通行止めになった。国道さえ通ることができれば子どもたちには影響ないが、昼1時頃、雨量が多く、速やかに下校準備の対応をしたと同時に、雨量規制で通行止めになった。土砂災害等による通行止めもある危険地帯だということを委員の皆様には認識していただきたい。

基本方針18ページ、28ページには、適正化を進める上で考慮すべきこととして、通学距離や時間、安全面、中山間地、豪雪地帯への配慮と記載があるが、再編原案にはその配慮が

見えない。文科省の手引の33ページには、小規模校を存続させる場合、学校統合を選択しない場合として、“①離島や山間部、豪雪地帯など、近隣の学校間の距離が遠すぎる、季節により交通事情が著しく異なるなど、学校統合に伴いスクールバス等を導入しても安全安心な通学ができないと判断される場合”と記載がある。決して申し合わせたわけではないが、恐らくこのことで小見地区、細入地域、山田地域が危機感を持って署名活動をしたのではないかと思う。

私も署名活動に関わったが、もちろん強制はせず、たくさんの方々に署名をいただいた。そういう大きな民意もぜひ再編に向けて御理解いただきたい。

【中村会長】 教育の資源が限られている中で、児童生徒一人一人にどういった教育を提供できるのかという観点から、学校再編を考えていかなければならない。

通学距離、通学時間についてはこれまでも繰り返し議論してきたところである。少しでも負担を解消するにはどのような方法が可能性としてあるのか、懸念される点は何か、この審議会でも洗い出し、地域の方々との議論への材料を提供していくということが大事だと思う。

【笹田委員】 パブリックコメントでは通学時間が1時間、それ以上という話が出ている。自宅からスクールバスのバス停まで、子どもたちは歩いて行くと思うが、どれぐらい時間がかかるか把握しているのか。

【学校再編推進課長】 バス停は、バスが旋回、待機できる必要がある場合があり、また41号線は交通量も多いため、既存のバス停等、道が少し広がっているところを活用している。例えば谷、中山乗車場は、公民館の駐車場を利用しており、そこに児童が歩いて来ている。最も近いバス停に来てもらっているが、実際に何分かかって歩いてきているかは年度によって異なり、現段階では把握していない。視察したところ、乗車時にはバス停

まで保護者が見送りをしている状況であった。

【江尻委員】 谷、中山の児童はバス停までは多分5分程度かと思うが、大沢野地区の児童もあり、本来はスクールバス対応だが、道幅が狭いため、スクールバスの乗車位置まで歩いてもらっているようである。歩くには距離が長く、有害鳥獣の危険もあり、保護者が車で集合場所まで送り迎えしている。

また、恐らく資料にあるスクールバスの所要時間は雪を想定していないと思うので、ぜひ大雪のときにスクールバスに乗り、子どもたちが長靴を履いて家から出て来るところも見てほしい。

今年の1月のどこか雪では休校はやむを得なかったと思うが、細入地域では雪が相当降るとなれば、朝3時から何度かに分けて、通学路を最優先に地域で除雪し、通学時間までには長靴を履いて十分安全に通行できる体制を整えているので、なぜ休校にするのかというくらいで、市内の混乱には少し驚いた。富山市は多種多様な地域があり、雪の場合、豪雨の場合など、地域によって様々に異なるということを改めて認識していただきたい。

【中村会長】 通学時間をより短縮するために、例えば2つの系統でスクールバスを出すことも選択肢として考えられるのか。

【学校再編推進課長】 現在の児童生徒数では少なくとも2台以上のバスが必要になる。最も遠い谷、中山から1便、東猪谷から1便出すなどの工夫をすれば、あくまで見込みであり実際に運行したわけではないが、現在のスクールバスの所要時間から差引きすると、谷、中山の方は約6分、東猪谷の方は約5分の短縮を見込んでいる。

【中村会長】 地域横断型の再編においては、考えられる限りの対応をしっかり用意していかなければならないと思うので、検討していただきたい。

【堀田委員】 スクールバスは道が細いと入れないという話があったが、例

えばバスではなく、6人、7人乗れるくらいのタクシーや普通車を走らせることは可能か。

【学校再編推進課長】 大沢野地域の小羽地区に実際にタクシーを出している。児童生徒の安全を考えた際に、バスよりもタクシーのほうが良いと判断し、保護者も納得していただけるということであれば、タクシーについても検討しないことではないと考えている。

【國香委員】 どの学校も、地域の方に子どもたちを育てていただいているという感謝の気持ちがある。統合、再編していくに当たって次に考えていかなければならないと思うのは、保護者がどのように考えているかである。通学路の安全確保に不安があり、通学時間が長くて負担であると考えているのか、それとも、これからの社会の中で生きていくために多様な人、学び、価値観に触れさせたいと考え、統合、再編を望んでいるのか。地域、保護者、これから保護者になる方々の意見を聞き、合意形成を図ることが何よりも大切ではないか。

また、予測のつかない社会の変化に対応していく資質・能力を身につけさせていくという責任を学校は背負っており、少人数、複式学級の中で、それをどうやって身につけさせていけばいいのかということは、学校現場としては大きな悩みでもある。また、クラス替えもなく、人間関係が6年間ずっと固定してしまう中で、心に苦しみを抱えている子どももいるのではないかという心配もある。

【斉藤委員】 基本的には統合に賛成だが、小学校は旧市とは少し事情が違い、大沢野に統合することは、距離的にも難しいかと思う。一方で中学生には、もう少し大人数で、多様性の中で切磋琢磨できる環境を提供してあげたい。パブリックコメントはほとんどが反対意見だが、中には冷静に考えると、という意見もあった。地域を横断することになり、要望されている義務教育学校はできなくなるが、まずは中学校を統合するのがよいと思う。

小学校1年生が大沢野小学校までバス通学するとなると無理も出てくるが、中学生になるとある程度体力的にも発達する。高校に進学すれば大変遠くなるという面から、小学校、中学校、高校と、発達段階に応じて通学距離を伸ばしていくという形もよいのではないか。

【高木委員】 文科省によると、中学生は、自らの個性や適性を探求する経験を通して、自己を見つめて自己の在り方を志向する時期である。この経験とは、例えば合唱コンクールや体育大会、部活動といった活動が考えられ、いずれも一定程度の人数あるいは集団が必要になるような活動である。その中で活動することでお互いの価値観の違いや自分と違う考えに出会うこと、対立するだけではなく折り合いをつけていく必要性を学んでいくことなど、社会性の育成について大事な時期である。

一方で小学校は、例えば低学年では集団でのルールを守る態度や善悪の判断、高学年では他者への思いやりといったことを、様々な体験を通じて学び、実社会への興味・関心を持つきっかけづくりをする時期である。地域との協働の中で小学生の育成も可能であるならば、小学校を残して中学校を統合する案も考えてよいのではないか。

【藤田委員】 小学生は地域の中で育む時間が大切になるが、中学生については、同世代の中で多様な意見に触れて人間関係を構築し、社会に出るための能力、例えばコミュニケーション能力を育んでいかなければならず、少人数規模ではなかなか難しいことから、中学校の統合は急務である。

小学校については、地域の中で育む時間が大切である。保護者、地域へ丁寧に説明し、御理解、御意見をいただくというステップを踏んでいくことが妥当ではないか。

【石動委員】 地域横断の大沢野・細入地域の再編は、山間部、豪雪地帯であり、小学生の通学時間も考えると、これまで審議してきた地区と状況が違うので、特別に考える必要があるのではない

か。地域や保護者と客観的かつ丁寧に議論を重ねていくためには、再編案を示すだけでなく、統合する場合、しない場合それぞれに対して教育上どのような配慮が求められるのか、制約はあるのかなども併せて示すことが大切ではないか。

【中村会長】 保護者がどのように考えているのかはしっかりと聞かなければならない。また、小学校に先だって中学校を統合し、小学校は慎重に考えていく必要があるという意見が多かった。いずれにしても、通学距離、バスの乗車時間、タクシーの利用も含めスクールバス等でどれだけの工夫ができるのか、統合した場合の教育の姿についてなど、教育上何ができて何が制約されるのか、そして地域の固有のものを統合後にどのように引き継いでいけるのか、選択肢をしっかりと示した上で、保護者や地域に判断をいただく必要がある。

【笹田委員】 昨年度の審議会において、神通碧小学校の開校に伴い猪谷地区から学校がなくなったことで、猪谷地区の人口減少率が非常に激しくなったと聞いた。特に小学校がなくなることは地域の将来を左右する大きな出来事だと思うので、旧富山市以外の地域については、そういった配慮も必要ではないか。

【中村会長】 ご指摘の問題は当審議会の議論の背景としてあり、基本方針に地域の実態にも配慮するという文言もあるので、考慮しないということでは毛頭ないが、小学校、中学校の教育という観点から、統合、再編がどのような意味を持つのか、どのような教育サービス、あるいは教育が提供できるのかをはっきりさせていかないと、その先にある地域の問題等についてしっかり議論できないかと思う。その上で何を選択するかは、地域の判断である。

【松井委員】 パブリックコメントは反対意見が多い。原案だけではなく、小中一貫校や義務教育学校の設置といった多様な学校のあり方についても検討してほしい。

【中村会長】 多様な形で可能性を模索していく必要があるという意見であ

り、振り返りに反映していただきたい。

《議事（２）事務局説明（大山）》

【中村会長】 再編原案（大山）について事務局から説明を求める。

【学校再編推進課長】 （再編原案（大山）について説明）

《議事（３）意見交換（大山）》

【江尻委員】 小見地区について、資料からはスクールバスの時間や距離はわからないが、栗巣野から上滝小学校の距離は１５km以上ではないかと思う。また、細入地域以上に雪深いと思われるが、雪害等、冬期間についてどのように考えているのか。

【学校再編推進課長】 最も遠いバス停は栗巣野公民館であり、そこから小見小学校までは約１２分、上滝中学校までは約３５分かかっている。年度によって児童の居住地は異なるが、保護者や地域から再編の合意が得られれば、通学距離が３kmを超える場合については、スクールバスあるいはタクシーでの対応について検討する。

【江尻委員】 平時は１時間以内ではあるが、降雪時はより時間がかかると思われる。

【笹田委員】 大山－１（３）における再編先学校の現上滝中学校併設小学校について、小学校棟を増築するから施設健全度が空欄になっているという理解でよいのか。

【学校再編推進課長】 増築する場合、新しい校舎が建つことになると思うので、施設健全度は空白としている。

【笹田委員】 新築に近いような改築ということか。

【学校再編推進課長】 上滝中学校は敷地が十分あるので、敷地内に新たに小学校棟を建設することになるかと思う。

【斉藤委員】 複式学級は解消する方向がいいと思うが、段階的統合については地元の意見を十分に聞き、統合の順番や組み合わせ等は柔軟に対応されたい。

【松井委員】 小見小学校は小規模特認校であり、富山県で唯一、スキージ

キャンプを教えている学校である。特色ある環境を残すことも検討するとよいのではないか。

【学校再編推進課長】 再編にあたり、保護者や地域からそういった施設や、今まで培ってきた学校の特色を新しい学校に引き継いでほしいという要望があれば、検討する。

【國香委員】 小見小学校は統合により通学距離が非常に長くなり、また、スキーという学校の特色がある。福沢小学校は、通学距離の課題はスクールバスによって解消されるのではないかと思われる、上滝小学校は今現在、複式学級はなく全学年単級である。それぞれの小学校によって状況が異なるため、保護者や地域の統合に対する意識も異なるのではないか。最終的なゴールを示しつつ、保護者と地域で統合の合意形成がなされれば、順次統合を進めていけばよいのではないか。

【中村会長】 複式学級の解消を基本とし、特色ある教育環境をどのように引き継いでいけるかについても検討する必要がある。全ての再編、統合に通ずるが、通学距離については、どのようなやり方ができるのか、しっかり考えていかなければならない。また、最終統合は目標として置きながらも、保護者や地域で合意ができたところから統合していくこと、その合意にあたっては、統合に際してどういった対応が取れるのか丁寧に説明していくことが大事である。そのほかに意見等あるか。

(意見等なし)

【中村会長】 大沢野・細入、大山の審議を終了する。第6回の審議時に本日の振り返りを行う。

私から2点ほどお話しする。

1点目、これまで活発な審議をいただいております、今後も答申に向けて様々な議論が交わされると思うが、このような状況においては、委員の皆様に対し、様々な立場の方から意見を求められることや、地域の方々から要望書等が出てくることが想定される。

要望書等については、その都度事務局から情報提供いただきたい。審議においては、委員の皆様の意見、知見、経験等を生かしながら、市民あるいは子どもの目線から、客観的な、全市的な視点で議論、審議いただきたい。

2点目、次回、第6回審議会（1月17日）において、一通り再編原案の審議は終了となる。第7回審議会（1月31日）では、全体の振り返りと、答申に向けた意見交換を行う。時間の制約もあるため、これまでの振り返りをベースにした、たたき台を事務局で作成し、私と品川副会長で確認した上で、第7回審議会でお示しするという形で進めることとしてよろしいか。

（異議なし）

- 【中村会長】 異議なしと認める。最後に、事務局から連絡事項等あるか。
- 【宮口教育長】 様々な貴重な意見に関して、教育委員会として現在どのように考えているかは、審議中であるため差し控えたいが、そのような意見に対し、様々な腹案を持っている。教育委員会としては、必要な教育をどのようにして子どもたちに提供していけるのかは第一義に考えたい。

これまでも、神通碧小学校と楡原中学校では、英語などを小学校の先生が中学校で、中学校の先生が小学校で指導できる、教員の兼務辞令ということをしてしながら、限られた教員配置の中で子どもたちの教育環境をよりいいものにできないかと取り組んでいる。小見小学校、福沢小学校では、一人でも多くの友達が同じ中学校へ進学できるように交流を行っている。中学校においては、学校選択制により、自分のやりたい部活動のあるところへ行けるように、あるいは友達と一緒に行けるように自由度を増すなど、様々な施策を講じてきたところである。

再編計画策定後に地域に出向いて説明する折には、まだ示していない部分も含め様々な選択肢を示し、それぞれのメリッ

ト、デメリット、細部にわたる対応策などを示しながら、地域や保護者の方と10年後、15年後のあるべき教育環境を議論し、統合、再編を進めていければと思っている。

【中村会長】 保護者、地域の理解あるいは合意を得る際には丁寧な説明が大切だということは、当審議会でも改めて確認した。教育委員会においても、可能な限り様々な検討をしていただきたい。

【学校再編推進課長】 (連絡事項)

【中村会長】 議事を事務局に返す。

《閉会》

【司会】 第5回富山市通学区域審議会を閉会する。

— 了 —